

常任委員会のご報告

令和6年度建設委員会 副委員長を務めました。

建設委員会は、都市局・土木局・上下水道局が所管する事業を審査します。



暮らしと共にある街路樹を未来へつなぐために

市は、市内410か所にある街路樹（約24,000本の中高木と約71,000㎡の低木）を計画的に維持管理するために「街路樹維持管理計画」を策定中、素案を提示しました(7月以降に策定予定)。計画は、景観の向上や、安全性、樹木の健全性を高めつつ、管理費用の抑制・適正化を図ることを目的としています。

市の調査では、現在、市内の街路樹の約36%が巨木化、約13%が健全度が悪化して早期対応が必要とされる状態です。また、倒木リスクの増加、根上がり、枝や根の越境被害なども深刻化しています。

街路樹は、街中に潤いや四季の彩りを与え、ヒートアイランド現象の緩和など環境面でも重要な役割を果たすなど、私達にとって大切な存在です。これまでは必要時に適宜対応されてきましたが、計画を策定することで目標や方針が明確になり、必要な費用の算出や財源の確保も可能になります。

私は、街路樹のような今ある「まちの財産」を守り育てることこそ、環境政策の一環として優先すべきではないかと指摘し、費用の算出と予算確保も行うよう委員会で提言しました。

お知らせ

第11回 牧みゆき
市政報告会

8月2日(土) 午前10時～

男女共同参画センター

西宮北口 プレラにしのみや内

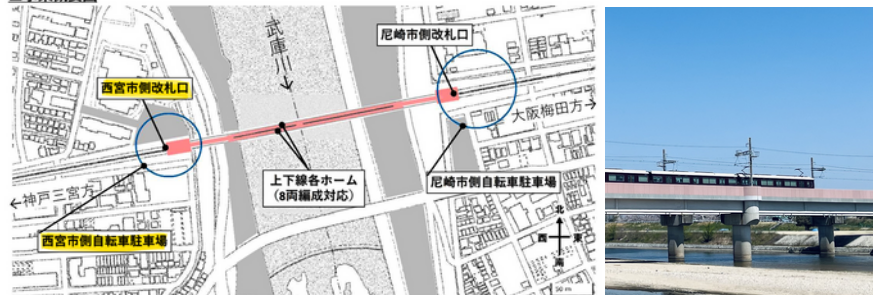
申込・詳細はホームページ等
で案内しています。※部屋の決定はセンターの予約
開始後になります。

※チラシの↓にホームページの案内あり

西宮ニュース 「武庫川新駅」設置事業に着手！

新年度初めに国の補助金の配分額が公表され、阪急武庫川新駅設置事業が採択され、4月4日に西宮市、尼崎市、阪急電鉄の3者で基本協定を締結。令和13年(2031年)度末の開業を目指し、事業に着手しました。鉄道施設の整備費は86億円、本格的な工事着手は令和8年度以降の予定です。

事業概要図



私は、これまで一貫して「伝える」ことに強いこだわりと信念を持って取り組んできました。

2年前の当選から現在まで、市政報告の発行は通算7号、報告会や茶話会など対話の場の開催は15回を超えます。加えて、公式LINEやブログなどを通じて、日々の出来事や議会の様子を発信し続けてきました。

なぜなら、より良い街、より良い社会をつくっていく上で、皆さんに市政を身近に感じ、知ってもらうことが何よりも大切だと考えるからです。そしてそれを伝えることこそ、議員の大切な責務と考えています。

知識も経験もない主婦から市議会議員となり、未熟なまま必死に歩んできた2年間でしたが、「伝えること」の重要性は、今や私の中で確信となっています。市政に市民の想いを反映させていくためには、「今、何が起きているのか」「私はどう考えているのか」を丁寧に伝え、共有していくことが必要不可欠です。エンターテインメントとしての参加型社会ではなく、一人ひとりの意思が活かされる社会を目指し、これからも変わらず「伝える」ことに力を注いでまいります。

こんにちは、^{まき}牧みゆきです。

春の訪れとともに市制100周年を迎えた西宮。

喜びの一方、市は先送りしてきた問題の数々に直面し、予算案の否決はその象徴とも言える出来事でした。この節目を転機とし、よりよい西宮へと歩んでいけるよう全力で取り組んでまいります。

西宮市議会議員 牧みゆき

◆3月定例会のご報告◆

当初予算案に反対しました。

— 3月21日の議会最終日、令和7年度一般会計予算案は反対多数で否決されました。

市制100周年を迎える西宮の歴史で、当初予算案が否決されるのは初めてのことです。—

予算案に対し、私と所属会派が反対した最大の理由は、市の姿勢そのものに対する懸念からでした。

本市は慢性的な収支不足により財政基金が底をつきつつあり、福祉的施策の見直しさえ迫られる深刻な状況にあります。一方、提出された予算案には、防災アプリの開発、見通しが難しい投資的事業への着手など、「今、必要だろうか」と疑問を抱く新規施策を含むなど、どこか危機感を欠いた姿勢に感じます。

人件費の抑制、施設や組織の統廃合など必要な施策について、これまで複数の議員から繰り返し指摘・提案されてきたにもかかわらず、市はこれらに正面から向き合ってきてませんでした。

取り組むべき課題を先送りしてきた結果、今や数年以内に予算が組めなくなる可能性さえ示されている中、漫然とした姿勢に変化が感じられない。ここに市民の代表として強い危機感を抱き、反対をしました。

後日、示された修正案では、指摘項目への変更がなされたため、課題に対し強い意識をもって取り組む姿勢、予算編成過程の透明化、議会や市民との対話を充実させることを強く求めたうえ、賛成しました。

改革する立場で修正案を提出。可決されました。

本定例会では、国家公務員の給与水準の引き上げ準じて、市職員全体の給与を引き上げる条例改正案が市から提案されました。私の所属する会派・ぜんしんはこれに修正案を提出。内容は、同等の職位にある国家公務員の給与と比べ、すでに高水準となっている一部の号給の「号」を削除し、該当する職員の給与を据え置くというものです。これにより、行政職に関する最高号給が国とほぼ同じ水準となります。

この修正案は、本市の長年の課題である人件費の抑制や、職位と給与の逆転が多発するなど、問題のある給与体系の構造的な是正を可能にするもので、持続可能な行政運営に向けた一歩と考えています。

一方で、「労使で合意した給与に、議会が干渉すべきでない」など反対の意見もあり、賛否が拮抗。採決の結果、賛成20反対20の可否同数となり、議長裁決により修正案は可決されました。

議員定数が一人減ること。

3月定例会で、議員定数を減らす提案が議員から提出され、私も提出者の一人として賛成しました。

厳しい財政状況の中、市に様々な見直しを求める以上、私たち議員の在り方も例外ではありません。

意見が分かれるなか議論され、賛成多数で可決。次回の市議選から定数は1名減り、40人となります。

共に政治を考え、みんなで創っていきませんか？

まき
牧みゆき / 1978年生まれ 広島県出身
大阪教育大学教育学部卒 元小学校教諭
2023年4月 初当選(1期目)
政党無所属 会派・ぜんしん
2024年度 建設常任委員会副委員長

連絡先

〒662-8567
西宮市六瀬寺町10-3
議員控室
☎ 0798-35-3343
✉ makimiy33@gmail.com

牧みゆきと
つながる/
公式LINE@
まきみゆきcafe

ホームページ
各SNS

公用車のEV車導入は慎重に。

市は現在、経常経費削減のため公用車の計画的台数削減に取り組む一方、CO2削減など脱炭素社会実現に向け、EV車の導入を積極的に進める方針です。しかし、本市の公用車の保有状況・年間維持管理費等を調査したところ、**EV車は同クラスのガソリン車と比べ車両の寿命が短い**うえ、**2～3倍の維持・管理費用を要するとわかりました**。また、**航続距離が短く市内の使用に限られること、充電用電源の確保をめぐる問題など、費用の倍増だけでなく、その他でも市が抱える負担が増えます**。市は、令和7年度ゼロカーボンシティ推進事業の一環として4年間で8台のEV車導入を計画していました。しかし、台数削減による効果を上回る費用がかかることを私が指摘した結果、**導入台数を減らすことを決定しました**。

さらに、**既に導入したEV車両の維持管理や実際の稼働を十分に把握しないまま、新たな導入を計画している点も問題です**。私は、今回の質問を通じて明らかになった課題について、EV車両を保有する各課の情報を集め、調査したうえで再検討するよう求めました。

環境問題など社会全体の意識向上に向けた取組みに、市が率先して予算を投じることは、公共として理想的な姿です。しかし、本市のように厳しい財政状況のもと、市民生活に不可欠なもののさえ更新が難しい状況では、市の負担を減らし、住民にとってより重要な施策に優先的に予算を確保することが、市の重大な責務です。

現状、CO2の削減には、大規模太陽光発電やEV車の導入など高コストな先進的事業の導入よりも、公用車の台数削減、ペーパーレス化、節電・省エネ、植樹などの緑化活動といった、目新しくはないものの堅実な取組みを継続することに力を注ぐべきではないでしょうか。



新型コロナワクチン接種の予診票の保存期限を延長することができました。

新型コロナワクチンは現在、定期接種に移行し、接種者は大幅に減少しています。一方で、**接種を起因とした健康被害による救済制度の申請は今も続いています**。本市でも令和6年度に新たに10件申請がありました。救済制度の申請には接種記録や市が保有する予診票の写しが必要ですが、**予診票の保存期間は5年と定められています**。令和2～5年度までの特例臨時接種では、救済制度の申請は無期限ですが、保存期限が過ぎて予診票が破棄されれば、今後の申請や認定に支障をきたすおそれもあります。

他の自治体では、**他のワクチンと比べ被害が圧倒的に多いことや、申請者が抱える不安や負担を考え、予診票の保存期限の延長を決めた事例が複数あります**。

私は、他都市の事例を調査したうえ、本市も保存期間を延長するよう求めました。

その結果、**本市も方針を変更。予診票の保存期限を一旦延長し、令和10年度に全国的な申請状況と各市の保存状況等を確認し、廃棄時期を示す**としました。

◆西宮市の予防接種健康被害救済制度の申請・認定状況

※令和2年度申請なし		特例臨時接種 実施期間				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	計
申請件数		13	18	12	10	53
認定件数		2	5	22	7	36
内訳	死亡・葬祭料	0	0	1	2	3
	医療費・医療手当	2	5	21	4	32
	障害年金	0	0	0	1	1
	障害養育年金	0	0	0	0	0
否認件数		0	1	1	4	6

皆さんが接種券で受けたコロナワクチンの予診票は市の倉庫に保存されています。全部で約150万枚、段ボール731箱分です。場所を圧迫し、長期保存には適していません。

現在、子ども達が成人までに受ける予防接種は25回前後。健康被害の可能性も考慮すれば、今後、保存する記録のデジタル化は不可欠と訴えました。

全市的な医療費の適正化の取り組みへ。

医療費助成や生活保護受給者への医療扶助費など、市が負担する医療費は年々増加しており、その適正化は喫緊の課題です。本市では、国民健康保険加入者を対象に、医療機関のレセプトデータ（診療報酬明細書）をもとに、適切な受診や服薬を促す「適正受診・適正服薬推進事業」を行っています。

この事業では、**頻回・重複受診や重複服薬に該当し、注意喚起や保健指導の対象となる方が多くおられます**。しかし、予算に限りがあるため、一部の対象者にしか通知が行えていないのが現状です。

個人の健康管理はもちろんのこと、持続可能で健全な保険制度の維持、地域医療を守るためにも、ひとりひとりが適切な医療受診を心がけることが不可欠です。そのため、私は事業の効率化を図るとともに、全市的な周知・啓発に市として積極的に取り組むよう提言しました。

健康的な食生活を後押しし、医療に頼りすぎない市へ

そもそも、市民一人ひとりが健康になることで医療費が適正化されれば、それに勝るものではありません。

啓発や指導による適正化を図る一方で、企業と連携した食の提供・販売や、公共施設の空きスペースを活用した弁当や野菜の販売など、**市民の健康的な食生活を後押しする取り組みをしないかを市に問いました**。

市は、生協での食育キャンペーンのほか、**健康に配慮した弁当の販売に向け、大学や企業と協働する計画があると回答**。また、**新設される仮称・越木岩センターでは、販売や飲食の利用基準を大幅に緩和し、民間事業者の活用も可能と考えている**としました。さらに、公民館などでは地域住民の主体的な取り組みを支援する活用方法を検討すると答えました。

↓スマートフォンのカメラ機能で読み取れます。

該当のblog記事
～要望書の願いが
聞き届けられました～



西宮市議会中継動画
牧みゆき一般質問
2025年3月3日



私達の声をかたちに

提出した要望書に進展！西宮から県、そして国へ。

前号で取り上げた、私も同席のもと市に提出された「予防接種の副反応疑い報告に関する要望書」は、今年2月に県へ、3月には厚生労働省へ、ほぼ同じ内容で提出されました。

市は要望書を受け、新たに市内の全医療機関に対し、副反応疑い報告制度と予防接種健康被害救済制度の再周知と協力を依頼しました。依頼文では、市民から「(国や該当機関に)報告されるべきものが適切に報告されていない」「制度の認知が不十分」「申請に必要な書類の作成・提供を医療機関に求めても円滑に対応されない」といった声が寄せられたことも、併せて伝えられました。

こうした市の働きかけは、提出者である関西学院大学経済学部の安岡匡也教授からも高く評価され、他自治体の先駆けとなればと期待されています。

*詳しくは上記案内のblog記事をご覧ください。